

# 60年代の国産スポーツカーの魅力とその倶楽部活動

## —自己紹介時に、レクサスの米国導入時のエピソードも—

トヨタオールドカークラブ 会長／トヨタスポーツ800オーナーズ協議会 代表

日本自動車博物館 顧問／日本自動車殿堂 会員（イヤー賞選考委員）

杉山 泰成氏

火曜午餐会7月第2例会を20日、当部5階大会議室にて開催した。クルマをこよなく愛する杉山氏は、クルマファンを増やし、社会貢献に繋がりたいと活動を広げられている。講演要旨は次の通り。

### クルマとの関わり

中学時代、東京モーターショーにてトヨタパブリカスポーツにほれ込み、高校時代には有名なカーレースを観戦、大学は工学部機械工学科に入学し、自動車部に所属して学生ラリーや遠征中心の学生時代を送った。トヨタ自動車販売に入社し、入社のに動かないトヨタスポーツ800を購入し修復した。海外のサービス技術関連に従事し、ベルギー、カナダ、米国に駐在。アフターサービスを通じ、お客様の満足度向上活動を推進した。トヨタ東京自動車大学校では副校長・校長の立場で学生を育成。若者を育てる遣り甲斐を実感した。

### レクサスの米国導入時のエピソード

1998年米国駐在時、発売後数年のレクサスが急成長していた。GM、フォード、クライスラーのビッグスリーの会議に招かれた私は、前日のレセプションで初老の男性にレクサスについて聞かれた。そこで、レクサスは「良かろう、安かろう」「高級車は作れない」と思われていたトヨタが社運をかけて作った高級車である事、販売店には「Lexus Touch」を周知させている事を話した。リコール問題が発生した時の事、頭を下

げるだけでなく、①米国では一般的でない車の引取り・納車、代車の提供、②内外装の徹底的な清掃、③ガソリンを満タン、そして最後に一輪のバラを添えて納車する等の心遣い「Lexus Touch」。この「Lexus Touch」に大変興味を持たれた様子だった。実は、初老の男性は当時のビッグスリーの1社の会長であったことが後でわかりました。

### 60年代の国産スポーツカーの魅力

今から50年前の60年代は高度成長期で様々な華やかな文化が生まれたが、スポーツカーもその一つである。スポーツカーの定義は難しいが、2シーターに限定すると、日産フェアレディ、マツダコスモスポーツ、ホンダS600、トヨタスポーツ800、トヨタ2000GT、日産シルビアの6車種にたどり着く。2000GTはトヨタが作った最高級スポーツカーで、浜三枝さんがボンドガールとして出演した映画「007」にも登場した。

私がオーナーズ協議会の代表を務めるトヨタスポーツ800（通称YOTA 8）は、トヨタ初のスポーツカーで、1965年～1969年の5年間で3057台生産され455台輸出された。調査によると、50年経った現在も、国内生存車が約900台（協議会把握：820人台）、海外生存車が210台あり根強いファンがいることがわかる。近年、国内外問わずオーナーによるレストア



寄付金贈呈式



同乗試乗

（修復・復活）が急速に増加している。

### トヨタスポーツ800 オーナーズ協議会

2015年、トヨタスポーツ800生誕50周年協議会を設立し全国6か所でイベントを開催した。クルマ自慢・同乗試乗等227名のオーナーと延べ282台のスポーツ800が参加し、大成功、2016年にはトヨタスポーツ800オーナーズ協議会と改名した。

協議会は、これからの50年に向けてのミッションとして、①オーナーが集い・楽しむ（イベント開催等）、②クルマファンを増やす（YOTA 8を一堂に会し展示・同乗試乗等、一般の方にも興味を持ってもらう）、③社会貢献（クルマの部品等のオークションで資金を集め交通遺児育英会等に寄付）、の3点を掲げ活動を続けている。皆様も機会があれば参加して頂き、是非クルマファンになって頂きたいと思ひます。

